



雨水利用を進める全国市民の会

会長 辰濃 和男

〒131-0032 東京都墨田区東向島 1-8-1

TEL: 03-3611-0573

FAX: 03-3611-0574

H.P: <http://www.rain-water.org/>

第3回世界水フォーラム 雨水利用in京都のお知らせ

2003年3月、いざ京都へ！

2003年3月、京都を中心に『第3回世界水フォーラム』が開催されます。この世界水フォーラムは3年ごとにおこなわれる世界最大規模の水に関する国際会議です。第1回のモロッコのマラケシ、第2回のオランダのハーグに続き、今回はアジアでは初めて、雨の豊かな日本の京都、大阪、滋賀で開催されます。

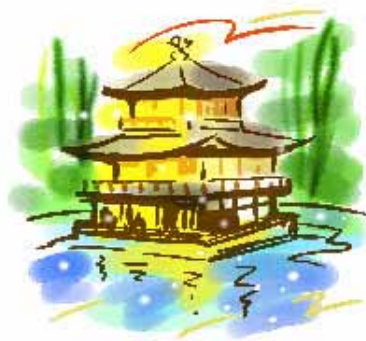
会議では水危機、水と衛生、都市と水、水文化など水に関するあらゆるテーマが取り上げられます。雨水利用を進める全国市民の会では、今回の世界水フォーラムを、地球規模での雨水利用に関する市民及び産官民学のネットワークを広げる絶好の機会と捉え、積極的に参加していきます。これまでに、山本副会長と村瀬事務局長が京都に何度も足を運び、京都雨水利用を進める会と関西雨水利用を進める市民の会と共同して準備を進めて、7月27日には、第3回世界水フォーラム雨

水利用実行委員会を立ち上げ企画を練り上げてきました。現在、この実行委員会には、京都市京(みやこ)エコ

ロジーセンター、京のアジェンダ21フォーラムなどの市民団体のほか、雨水事業者の会、雨水利用自治体担当者連絡会、建築学会水循環サブワーキンググループなど多くの団体が名を連ねており、実行委員会に参加する団体も日を追って増えています。

雨水利用実行委員会では、世界水フォーラム開催中、京都において雨水利用に関するさまざまな催しを行います。内容は、同封のチラシをご覧ください。

(村瀬)



3月20日(木)

雨水利用セッション

世界水フォーラム事業として行われ、世界の水危機を打開するための雨水利用に関するさまざまな取り組みが報告されます。(同時通訳つき)

時間: 午前9時～午後6時

場所: 京都国際会議場 C2会議室

主催: 第3回世界水フォーラム雨水利用実行委員会

国際雨水資源化学会(IRCSA)

インド・ジャワハラルナル大学

登録料: 8,000円(ただし、12月31日までに申し込んだ場合は、NPO登録団体として6,400円になります。)

市民の会(取りまとめ)申し込み: 12月24日(水)までに事務局までファックスでご連絡ください。また、12月31日までは市民の会の名前で実行委員会へ直接申し込んでも割引になります。

The 3rd World Water Forum

3月21日(金・祝)～22日(土)

雨水利用グローバルネットワーク会議

20日の「雨水利用セッション」は、時間の制約もあり発表者と参加者との十分なやり取りができないため、この会議で市民代表者から産官学まで広く参加を呼びかけ、ポスターセッション、パネルディスカッション及び分科会、研究発表を行います。

時間: 午前9時～午後6時

場所: 京(みやこ)エコロジーセンター

主催: 雨水利用実行委員会

共催: 京エコロジーセンター

資料代: 1,000円

ポスターセッション募集と宿泊の申込み

第3回世界水フォーラム雨水利用実行委員会では、ポスターセッションを募集しています。

参加希望者はファックスで事務局までご連絡下さい。

また会議は1万人規模の会議になるといわれており、宿泊施設を確保しておかなければなりません。実行委員会では「宿坊」をおさえるべく奔走しています。

宿泊希望者は、1月末までに事務局へFAXでお申し込み下さい。

村瀬事務局長 ロレックス賞 受賞!!

「戦争のためのタンクではなく平和のために雨水タンクを」



自然を征服しようとした巨大ダムより、無数のミニダムを
(第10回ロレックス受賞者写真
ファイルより)

村瀬事務局長がスイスの時計メーカーのロレックス社が設けている「ロレックス賞」準入賞に選ばれました。今回、第10回ロレックス賞授賞式が10月23日東京で開催され、10名の受賞者のうちアジアからはただ一人の入賞となりました。

この賞は、1976年に創設され、2年に一度ずつ授与されています。すでに完了した業績をたたえるのではなく、革新的なプロジェクトを遂行するのに必要な資金援助と社会的認知の提供を目的としています。選考基準

は、「独自の企画を固い決意と粘り強さ、そして大胆さで推し進めてきたか...ロレックス賞そのものがそのプロジェクトにどのような影響を及ぼすのか」などがポイントとなります。その対象は、科学と医療・技術と確信、探検と発見、環境、文化遺産などのかなり幅の広い分野です。

今回、「村瀬氏は、都市部の雨水の利用における先駆者であり、現在は世界の都市生活者が迷惑視している有益な資源(雨水)の活用を世界的規模でキャンペーンしています。...『雨の事典』を編纂し、世界の国々が貴重な水を活用できるよう支援しています。」と評価を受けました。まさに当会の活動そのものです。

村瀬事務局長は、賞金約400万円を『雨の事典』の英訳の出版に役立て、雨の大切さを世界に発信していきたいと語っています。(高橋)

受賞者の人々

入賞者

- ゴードン・サトウ(アメリカ合衆国) / マングローブを基盤とする農業を確立し、世界で最も乾燥した地域の住民を支援する / エリトリアの紅海海岸地帯
- リンディ・ロドウェル(アフリカ) / ツルの生息地と地域住民の生活様式を保存する / アフリカ中南部
- ミシェル・アンドレ(フランス) / クジラと船の衝突を防ぐ革新的システムで、海生哺乳類を保護する / カナリア諸島
- デイブ・アーヴィン=ハリデイ(カナダ) / 発展途上国の教育や生活水準向上のため、民家や学校に低価格で確実な低電力照明システムを供給する / 南アジア
- ジョゼ=マーシオ・アイリス(ブラジル) / 地元住民の参加をうながし、世界最大の熱帯雨林回廊を保護する / アマゾン

準入賞者

- 村瀬誠(日本) / 都市部の水不足解消と資源保護のため、雨水を利用し、安全で持続可能な家庭用水を供給する / 東京
- イルゼ・クーレン=ロレフソン(ドイツ) / 伝統的および現代的な知識を活用し、インド・ラジャスタン州のラクダを救い、古代コミュニティの生活様式を守る / インド・ラジャスタン州
- ジェフリー・サマーズ(英国) / 革新的な考古学的方式を適用し、鉄器時代のアナトリア高原の都市部の地図を作成し、研究する / トルコ中央部、ケルケネス・ダーウ
- セバスチャン・チューア(タンザニア) / タンザニアの国の木を守り、次世代に緊急な環境保護の必要性を教育する / タンザニア東北部
- マータ・ルイズ=コーソ(メキシコ) / 貧しい人々に権限を与え、新たな農村文化を確立し、シエラ・ゴルダ森林地帯の類まれな種の多様性を保護する / メキシコ、シエラ・ゴルダ

Rolexのホームページ<http://www.rolexawards.com/news-update/ceremony.html> で受賞式典の様子と、村瀬さんの挨拶が見られます。Special Award を選び、ウインドウズ・メディアプレイヤーカリアル・プレイヤーの選択画面が出ます。使用できる方のソフトを選択し音声付きの動画が見られます。

おめでとうございます!
「村瀬さんのロレックス賞
受賞を祝う会」
を行います

ロレックス賞は、環境のノーベル賞と言われている権威ある賞です。この賞の応募に当たって、村瀬さんは当会の会員からと墨田区の職員から推薦を受けました。このたびの受賞は、プロジェクトの遂行への支援の位置づけがあり、当会と墨田区、また各地の雨水利用を進める市民の会や他の市民団体との連携をいっそう充実する契機となれば幸いです。

堅いことはここでストップし、村瀬さんの受賞をお祝いしましょう。以下のように会を催します。

同封のはがきで出欠席を12月24日(火)までに返信をお願いします。

●日時：2003年1月18日(土)

午後2時～4時(受付午後1時30分)

●会場：フラムドール 2F

(墨田区役所隣・黒色のビル・屋上に炎のオブジェ)

交通：東武伊勢崎線・営団地下鉄銀座線
都営浅草線「浅草駅」 徒歩3分

●会費：5,000円

●主催：村瀬さんのロレックス賞を祝う会実行委員会(当会と墨田区職員の有志)



海外レポート

雨期到来のバングラデシュへ

スカイウォータープロジェクトのプラント 完成間近か



「あまみず」の前号で掲載したように、スカイウォータープロジェクトのプラント完成を見るために、8月30日から9月3日までの5日間バングラデシュへ行ってきました。バンコク2泊、ダッカ2泊。とにかく駆け

足旅行でした。9月のバングラデシュは雨期の終わり。雨は週に1日くらいですが、そこかしこ、まだ水浸し状態です。またまたストライキに遭遇してしまいましたが、動けるのは1日しかなく、朝4時から夜まで動き回りました。

プラントはまだまだ完成ではなく、何箇所かは注文と違っていたり、直さなくてはならないところもありましたが、形になってきました。徳永さんは、たて樋を使った直接雨水をボトルに詰める装置を作り始め、村人達が興味津々見つめる中、完成しました。

帰り際、スコールがあり、村人達が溜まった雨水を飲むという、うれしいおまけまでつきました。

相変わらずトラブルがあったり、思うように動けなかったり、いろいろなことがありましたが、着実な成果を目にすることができた旅でした。(今関)



雨水ためて飲み水に

バングラデシュ

完成したばかりの雨水を集める装置に集まる村人達。バングラデシュ・コックスバザール村。松本雅昭撮影

2002年10月21日の読売新聞で紹介されました。

プラントがあるのは、バングラデシュの首都ダッカ郊外にあるクトゥプル村。小屋2棟を建て、屋根に降った雨を雨どいで集め、ボトルに詰める。コンクリート製のタンクにもためられる。飲み水の井戸水が砒素で汚染され、代わりに雨期に降った雨をボトルに詰めて、乾期に売って現地の女性の自立の手助けもしたい。

第3回 東アジア雨水利用国際会議(韓国・濟州島)

8月22日～24日、韓国の濟州島で開催され、村瀬事務局長が出席しました。投稿された論文は13編で、発表者の国や地域は中国、アメリカ、日本、韓国、台湾、ドイツ、フィリピン、スリランカ、グアムと多岐にわたっていました。村瀬事務局長は、「21世紀における

雨水利用の見通し」と題する発表の中で、墨田区の雨水資料館の果たすべき役割と国際雨水センターの展望について、関連させながら世界の雨水利用ネットワークを広げていきたいことを述べました。(仲井)

北京雨水利用・雑排水有効利用国際シンポジウム(中国・北京)

9月23日～25日、北京で開催され、出席した村瀬事務局長は、「21世紀における持続可能な水戦略のための雨水利用」と題して発表をしました。この中で、将来都市に人口が集中した場合の水不足、都

市洪水等の問題を取り上げ、これらの問題に対処するには雨水利用が有効であると、雨水利用の有効性を述べ、北京オリンピックスタジアムに雨水利用を導入することを提言しました。(仲井)

あまみず講座の参加者募集

会員以外の方でも参加できます。同封のチラシをコピーするなどしてPRの方もよろしくご協力お願いします。

身近な雨から地球を見よう - 公開セミナー第5回(最終回) -

雨の森を語る - 雨、森、人、生き物の関係

雨は水循環の要であり、地球上のすべての生命を育んできました。

森に入ると、雨の循環の一端を目の当たりにすることができます。森は豊かな水を湛えてゆっくり湧出させたり、雲を呼び寄せて雨を降らせることもあります。また、雨によって育まれた森は、多様な生き物の棲みかでもあります。一方、炭酸ガスを吸収して地球の温暖化を軽減する役割にも注目が集まっています。

森からの発想を重視する稲本正さんは、地球を「森の惑星」と呼び、人類の未来に立ちほだかる環境問題を解決する決め手となる、と力説しています。世界の森を訪ね、つぶさに見つめてこられた氏をお招きし、人や生き物との関係を語っていただきます。



* 稲本正さんのプロフィール *

食器から建物まで幅広く扱う一方、植林活動等を行う工芸家。岐阜県清見村にあるオーク・ヴィレッジを主宰。著書に『森の旅 森の人』(世界文化社)、『森の形 森の仕事』(世界文化社・毎日出版文化賞)、『森の自然学校』(岩波新書)、『森の惑星』(世界文化社)、『森を創る 森と語る』(岩波書店)など。



日時:平成15年1月25日(土)
午後1時~3時

講師:稲本 正
(オーク・ヴィレッジ主宰)

会場:大学生協渋谷会館
(渋谷区神宮前6-24-4
JR山手線の線路際、8Fと2Fの茶色の建物)
電話 03-3486-6645

交通:JR山手線 渋谷・原宿駅より徒歩10分
地下鉄千代田線 明治神宮前駅より徒歩5分

定員:50名

参加費:1,500円

申し込み

事務局へFAX(03-3611-0574)

またはE-mailの場合は担当の田中、高橋まで

メールアドレス asadesuyo@h8.dion.ne.jp

だれでも簡単にできる

ポリバケツを使った雨水タンク作り方教室

雨水タンクを作ってみたい。簡単そうな気がしますが、プラスチックをきったり、管をつなげたりすることは、道具がないとなかなかできません。天水尊の製作者である徳永さんにタンクづくりのコツを教えてくださいながら、作ってみましょう。まずはトライ!

●日時:平成15年3月1日(土) 午後1時~4時

●場所:すみだ環境ふれあい館

●講師:徳永暢男さん

●参加費:受講料500円

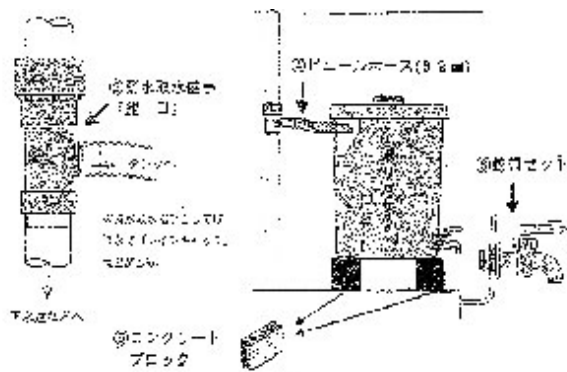
材料費:合計約1万円

ポリバケツ(45ℓ又は70ℓ) 2千~4千円+

雨水取水継手「龍口」2千円+蛇口セット2千円

+ビニールホースなどのパーツ千円

●その他:タンクを宅急便で発送される方には、送料



1000円(沖縄のみ2500円)で送ることができます。

●申し込み:事務局へファックスで

(03-3611-0574)

雨の事典の編纂作業を通じて、雨に関する体験や知識を深めたいということから端を発した「身近な雨から地球を見よう」公開セミナーは、好評を得て第4回を終え、最終回を残すのみになりました。これまでのセミナーの内容は詳しくは年報に載せる予定です。今回、参加者からいただいた感想を紹介します。(注) 日時 会場 講師 参加者数(内非会員) 参加者の声の順です。

第1回 雨に親しむ市民の句会－俳句・短冊・百花園



講師の黒田杏子さん(写真右)「環境問題の会だからこそ自然を感性で見てほしい」

9月7日(土) 午後0時30分～5時 向島百花園・御成座敷
黒田杏子さん(俳人) 26名(非会員10名)
小林忠次さん ...すぐそばを通りながら、なぜか訪れる機会がなかった向島の百花園。俳句も然りで、自己流で作ったりしていましたが、人前で披露できるものではありませんでした。雨水の会の活動にしても、関心がないではなかったのですが、これまたやり過ぎていました。そんな私に、幸運にも3つのことを一度に体験するチャンスが到来しました。茶飯とおでんをいただきながらの楽しい会の帰り道には、たっぷりと雨が降り、翌日には講師黒田杏子さんの著書『俳句、はじめてみませんか』に巡り会ったのは偶然奇縁なのでしょうか。このラッキーな気分を大切にしたいと思います。

第2回 高尾山の ブナ林を歩こう



大雨のなか決行。まさに本望の雨の森を歩けました。

9月28日(土) 午前9時～午後5時頃 高尾山
吉山寛さん(裏高尾山天狗裁判原告団団長) 11名(非会員2名)
津久井利幸さん ...期待どおり(?)の雨で、出会った登山客は一桁。お互い、雨の中ご苦労様と呟く。しかし、そのおかげで普段では見過ごしているのに、濡れた木々の落葉を踏みしめたり、キノコやサワガニに遭遇したり、新鮮な思いをしている自分にまた、驚きました。時折見えた圏央道の建設現場は、その高尾山にはそぐわないと違和感を覚えました。もしかして宮崎駿の描くようなタヌキ達が住んでいて眺めているかもしれない。幾重にも積み重なったブナの葉を踏みしめ、その代償の大きさを想像すると、切なく複雑な気持ちになりました。今回は元物理を教えていた吉山先生や人見さんのユニークな説明で、高尾山の歴史や自然を勉強することができ、貴重な体験ができたと思います。

第3回 雨のおいしい話



雨にちなんだお菓子、料理を食べながら雨づくしの話と映像。こだわりの会でした。

10月19日(土) 午後1時～4時 すみだ環境ふれあい館交流スペース
レインドロップス 26名(非会員6名) 関本多恵子さん ...身近な雨ですが、知らないことがいろいろあって勉強になりました。徳永さんに戴いたレインスティックは癒しの音になりそうです。映画ではジェラルド・フィリップという俳優を初めて知り、観たくなりました。バングラデシュの地下水が砒素で汚染されてることにびっくりし、変形菌という生物の存在も初めて知りました。日頃の世界とは違う角度からの知的な刺激と問題意識が得られ、面白かったです。そしてなにより「雨のお料理」は、私も作ってみる上で参考になりました。私は教師ですが、私のフィールドでできる範囲のことをしていきたいと思います。しかし遠足の時はやっぱり晴女でいたいです。



第4回 気候がつけた地名の話ー風と雨と人々の暮らし

11月9日(土)午後1時~4時 きゅりあん(品川区立総合区民会館) 吉野正敏さん(筑波大学名誉教授・元日本地理学会会長) 24名(非会員名人)

佐藤年緒さん...自然への恐れや願いが込められた気候地名。その由来を知るには考古学のように推理と想像力が必要な時代になってしまいました。地名に人々の生活や心のありようが反映されていることを知った楽しい話でした。伊豆の天城山は雨が多い山で、「雨」と「天」は同じ。丹沢の雨降山は、雨の前兆を知るに格好な場所で雨乞いの対象だったそうです。「日影」より「日向」が多いのも理解できました。

湿潤多雨のアジアモンスーン地域での地名分布も知りたところです。日本では「風土」と言いますが、中国には「風水」思想があるとのこと。四季の変化がはっきりし、気象の移ろいの多い日本と、雨季、乾季がはっきりしている地域とでは、同じアジアでも地名に込める願いも異なるのでしょうか。今後知りたと思いました。



吉野正敏先生は、現在、タクラマカン砂漠の研究をされています。砂漠の自然災害で一番多いのはなんと「溺死」だそうです。

プロジェクト活動報告

雨水利用の文献データベース化と ホームページの充実を

情報部会報告

この夏一挙に優秀な若手会員が5名加わり、雨水利用データベース製作も世界水フォーラムに向け完成を目指し加速化しています。700件程の雨水関連資

料(書籍、雑誌、行政資料など)から検索できるもので、出来れば有料化し会運営にいくらかでも貢献できればと計画です。現在ホームページは、バックアップ体制の問題もあり十分にその可能性を活かしている状況ではないため、来年度に向けてその活用方法から検討し、新メンバーと共に積極的に情報の受発信できるよう再構築を図る計画です。(松本)

レイン・レポート第1号は欲張り気味です

年報部会報告

前号でもお知らせしましたように、年報第1号は年度内に発刊する予定となっています。調査レポートの原稿校正もほぼ終え、近々CD化へ...といきたいところでしたが、ここにきて欲ができました。皆さんもご存

知の『雨の事典』公開セミナーの様子など、さらに多くの情報を収集中です。

また、CD化についても年配の方にはパソコン操作はちょっと...ということで、印刷による冊子化も検討中です。どちらにしてもできるだけ多くの活動内容をご報告することになりそうです。

お楽しみに!(宮村)

子供たちと祝う収穫祭

雨水探検隊PT報告

雨水探検隊は毎年墨田区内の小学生と米作りを行っています。さる11月9日には区の家センターで収穫祭を開き、自分達が育てた米を炊いて作ったおにぎりを味わいました。子供の数は、約60人もの参加

をみました。先生や父母の方が環境教育に熱心なこともあります。自発的にこれだけの子供が集まり、途中で飽きたりすることもなかったのは嬉しいことです。(伊藤談・仲井)



イオン財団から100万円の助成決定

スカイウォーターPT報告

バングラデシュでの雨水利用施設導入支援であるスカイウォータープロジェクトと第3回世界水フォーラ

ムでの雨水利用グローバルネット会議開催の事業に対する助成をイオン財団に申請していましたが、11月半ばに100万円の助成決定の知らせが来ました。いずれもお金がかかる事業です。スタッフ一同、ほっとしています。(村瀬談・高橋)



必見！雨水資料館の「龍」



雨水資料館のユニフェイス 鶴ヶ島の龍

雨水資料館の入り口に「龍」が飾られているのをご存知でしょうか。この龍は、鶴ヶ島市から寄贈された「脚折（すねおり）の雨乞いの龍」です。江戸時代に端を発したと言われ、鶴ヶ島市では4年に一度（前は平成12年8月）、降雨祈願の行事として行っています。この行事では、麦藁と孟宗竹で作った長さ36m、重さ3トンもある龍が使われます。この龍を池に入れて「雨降れ！たんじゃく、ここへ懸かれ黒雲」と叫び、龍の体をいためてつけて雨乞いをするというユニークなものです。

雨乞いの行事のない年にも、龍の作成技術を継承するために、5分の1サイズのミニ龍を制作しています。いただいた龍はこのミニ龍です。10月19日、龍を取りに行った松本さんは、「トラックに乗せて鶴ヶ島市から墨田区まで1時間半。荷台に納まらず、屋根の上にシッポを乗せて高速道路を走ったところ、龍神様がふわーっと飛び立とうと...龍神様も風に煽られてはらはらだったのでは」。その夜は、東京では久しぶりの雷雨でした。龍神さまのご挨拶には、びっくり。「雨降れたんじゃく、ここへ懸かれ黒雲」松本さんは、思わず資料館の方を向いて拝んでしまったということです。（笹岡）

新会員の紹介

□千葉在住の森充さんは、JICAのシニアボランティアに参加し、今年4月までの2年間、タイで活動されていました。タイではきれいな水が得にくく、衛生状態の悪い水が病気の原因にもなっています。雨の多い国なので、雨水利用が重要と森さんは考えています。日本で積極的に活動している団体ということで、市民の会に入会されたそうです。

□パックテストなど、水質の簡易分析製品の研究開発・製造販売をしておられる、岡内完治さん。村瀬さんをはじめ、会員の中には知りあいも多いとのこと。なぜか会への参加は遅くなりました。「雨水ほど身近な自然の水はありません。これを有効に利→

「川は川らしく、湖は湖らしく」

第18回 水郷水都全国会議・長野大町

11月16日～17日

新雪に輝く北アルプスの山麓、長野県大町市で開催され、当会から3名が参加しました。信濃川の源流に位置する大町市は、戦前から今日まで昭和電工による水力発電などの利水により、青木湖の水位低下、高瀬川の水涸れ状態をかかえ、本来の姿を取り戻すための住民訴訟が継続中です。一方、田中康夫知事の「脱ダム宣言」から、下諏訪ダムが建設中止となり、これまでの公共事業のあり方への反省と見直しの機運が高まっている地元での開催でした。

2日間の大会には、全国各地から水環境に関わる市民、学者、行政担当者が駆けつけ、参加者は280名にもものぼりました。地元長野県民の運動の成果を皮切りに、「水利権」「基本高水」などの言葉が飛び交う、熱気溢れる話し合いが行われ、今後の取り組みの方向が見えたかに思われました。

水環境保全のために、いかに山林を育て「緑のダム」を造るか、水源の化学物質による汚染防止とリスク対策、水力発電による河川への重い代償をどう解決するか等々、課題は山積みしています。美しい北アルプスの自然環境と豊かな水資源を次世代に引き渡したい、水郷水都の再生を決意して散会しました。

（田中清子）



水源の神を語る会、森の学級との交流会

11月16日（土）、「水源の神を語る会」と「森の学級」の皆さん約30名が、路地尊と雨水資料館の見学に訪れました。案内にたった徳永副会長のバングラデシュ報告を聴いたあと、資料館のパンプキン型の雨水タンクから水を汲んだり、雨水利用の機器を熱心に見学しました。（長尾）



→用することは、水の有効利用の面だけでなく、生活や自然を幅広く観察することで子供達への環境、自然、情緒、生命の営みの教育にまで繋がります。」と次代へつなぐ架け橋を模索中です。（笹岡 ｲﾝﾀﾞﾚﾞｰ）

21世紀は保水型下水道へ

人見達雄

(日本下水文化研究会会報「ふくりゅう」(平成14年10月10日号掲載)

私は今、やるせない気持ちでこの文章を書き始めている。

とても書くことの出来ない心境だ。東京で、母親が小学生のわが子二人を絞殺する事件が起こった。それは、私の友人の妻だった。東京に転勤して戻ったという知らせに自宅へ電話をすると、妻は、「激務で帰ってこないのです」と言った。そのうち、落ち着いたらゆっくり飲んで、展望を語り合おうと思っていた矢先の出来事となった。

私は、東京は心まで乾き始めたと思った。

上村講演に感激

7月6日、我々の招きで、上村裕二氏に「循環型社会における下水道行政のありかた・・・雨水を資源として利用するために」と題した講演をしていただいた。国土交通省下水道企画課長にある人の言葉とは信じられなかった。

もともと、われわれの下水道料金問題の学習会シリーズは、多少姑息な意図を含んでいたと白状せざるをえない。それは、これ以上の雨水利用を促進するためには、雨水利用にたいする下水道料金徴収の減免が避けられないという認識からであった。国の政策を執行する立場との対立ではなく、理解を深めることを目的としていたわれわれは、対立的な表現とならないように、配慮していた。ところが、それは無用の心配で、水循環についてはわれわれ以上の理解者だった。

上村氏の講演は、雨水の利用はもとより、都市の水循環の中に位置付けた下水道のありかたを考察するものだった。これまでの下水道の現状を、「雨の日、東京湾大腸菌汚染」と題する週刊誌の暴露的な記事まで持参して、ありのままを肯定する勇氣、私は、これが役人としての真の情報公開だと、心をうたれた。しかし、循環型下水道の実現へは、ひとり、下水道担当

部門だけでやれるものではないと、胸の内を聞くことができた。

保水型下水道への提言

これまでの下水道は、とうふの中にストローを刺し込んで水を抜き、都市を高野豆腐のように固め、土地利用を高めるための装置。一方、上水道は、都市にきれいな水を必要とされるだけ運び込む装置であったと言うことができよう。下水道は静脈として、それぞれ、機能分担して発達してきた。ところがいずれも、任務に忠実なあまり度を越してしまったようだ。上水道では、集水装置としてのダムに見られるように、自然破壊と経済の負の波及効果を露呈し、下水道では、ヒートアイランド現象の結果といわれる、都市型洪水までの一因を問われることにもなってきた。その結果、ひとびとの、こころの乾燥化にも一役買ってしまっていたとは言い過ぎだろうか。いずれは、上下水道、河川、環境の合体が必要となっている。

私は、保水型下水道を提言する。保水型下水道とは、雨水の浸透と貯留を下水道施設に位置付け、土地の保水性を健全に保つことをも考慮した、改良型下水道とでもいえる。これまでの下水道とは矛盾するようだが、理解される条件はそろってきている。このなかで、「雨水公費、汚水私費の原則」についても越えることができることと思う。

小金井市ではすでに年間100万トンの雨水浸透実績を得ているし、合流式下水道の越流対策としては雨水利用での貯留効果も認められている。雨は循環のかなめであり、雨水を資源と位置付けた、保水型下水道への変身を期待している。

(注) 6月15日、7月6日の下水道料金に関する講座と関連資料について近くCD又は印刷物を作成予定です。(高橋)



- 雨風食堂レシピ -

初霜のきのこ山

材料：蕪、卵白、キノコ、紅葉のたれ(だし汁、薄口醤油、酒、みりん、真っ赤な梅肉)

①蕪をすりおろして、水気を切り、泡立てた卵白を混ぜる。②キノコを湯がいてあくを取り、適当な大きさに切る。③酒、みりん、醤油でキノコを炒める。④キノコを蕪に混ぜ込む。⑤④を5cm位の大きさに丸めてラップに包んで茹でる。⑥たれに梅肉を混ぜて赤くする。⑦⑤を白い皿に盛り付け、赤いたれをかける。(菅谷直子)

事務局を助けてください! 事務局員 急募

これまで事務局を支えてきた磯村さんと高原さんが、家庭の事情で事務局の仕事を降りられます。しかし、まだ後任が決まっていません。平日の半日程度だったらやってもよいという方を公募しています。お気軽に事務局へお問い合わせください。内容は、事務局の電話応対、FAXや資料の整理、ニュースレターの発送作業などです。わずかですが、報酬も出ます。(事務局へFAXで)

編集後記 もっと計画的に!と思いながら、いつもながらのドタバタで、会員の皆様には大変ご迷惑をおかけします。お知らせ記事ばかりでなく、会員の活動や技術情報など多面的にのしい情報を載せられるよう、情報お寄せください。